「お許しいただければ幸いです」

—許しを乞う表現としての適切性の検討—

蓮沼昭子（姫路獨協大学・創価大学〈名誉教授〉）
hasunuma415@gmail.com

【要約】

「ご確認いただければ幸いです」（＝「幸いです構文」）は「ご確認ください」がもつ直接的な働きかけや押しつけがましさの緩和を意図した丁寧な依頼表現として、ビジネスメールや書簡で多用される表現形式である。一方、自らの責任に起因する重大な過失や迷惑に対し、相手に許しを乞うような場合にはこの構文の使用は不適切で、むしろ直接的な「お／ご～ください」のほうが適切となる。本稿は、超級レベルの中国人日本語学習者が使用した「お許しいただければ幸いです」の不自然さの発生原因の解明を目的とするものである。「幸いです構文」に類似する英語構文、および中国語の対訳例の調査を通し、第二言語の定型表現は、言語能力が非常に高い学習者であっても、習得が容易ではない分野であることを指摘する。

１．テーマ選択のきっかけ

本稿のテーマ選択のきっかけは、超級レベルの中国人日本語学習者から受け取ったメールで使用された表現に感じた違和感である。(1)(2)の下線部がそうした例である。

(1)　［研究の進捗状況の未報告に対する詫び］
呆れて見放されても当然の行動であり、大変図々しいお願いとは存じますが、<u>お許しいただければ幸いに存じます</u>。〈許しの懇願〉(2020/5/5 送信)

(2)　［メール返信の滞りに対する詫び］
研究が思い通りに進まず、返信をお送りしてなかったことを<u>お許しいただけますと幸いです</u>。
〈許しの懇願〉(2020/7/7 送信)

筆者はこのメールの送信者と日本語と中国語の対照研究の計画を進めていたのだが、(1)(2)は、その進捗状況や調査結果の未報告を詫び、許しを乞うメールである。ここで使用された「お許しいただければ／いただけますと幸いです」には、微妙な違和感を覚えた。一方、類似の構文が使用された(3)(4)に対しては、前者に感じるような違和感は覚えなかった。

(3)　長い間ご心配をおかけして、忸怩たる思いに駆られる毎日ですが、Zoom ミーティングの機会を<u>いただけますと幸いです</u>。〈依頼〉(2020/8/14 送信)

(4)　今週の日曜日、○○○で発表する予定ですが、ご教示いただく機会を<u>いただけますと幸いです</u>。〈依頼〉（中略）お厳しいような場合は、何とぞ<u>ご放念いただけますと幸いです</u>[1]。

[1] 会議での発表後、(4)の「ご放念いただけますと幸いです」にも違和感があり、「ご放念ください」のほうが適切ではないかとのコメントを仁科陽江氏から頂戴したが、筆者もまったく同感である。「放念」は記憶の負担からの解放であり、聞き手に利益をもたらす事態と捉えることが可能だが、こうした事態に対しては

(1)(2)と(3)(4)には発話意図の違いがあり、前者が非礼・迷惑を詫び、許しを〈懇願〉するものであるのに対し、(3)は〈依頼〉、(4)の前文は〈依頼〉、後文は〈勧め～願望〉を表していると考えられる。つまり、(1)(2)に対する筆者の違和感は、自らの責任に起因する非礼・迷惑に対し、許しの懇願を意図しているにも関わらず、冷静すぎて懇願の切実さが伝わらないことに端を発しているように思われる。

本稿は、上記の違和感の発生原因の解明を目的とするものだが、ここで本稿の構成を示しておきたい。2 節では、〈懇願〉という発話行為に対する筆者の位置づけを確認する。3 節では、本稿が実施した調査の概要とその結果を解説する。4 節では、3 節で明らかとなった事実に対し、日本語の「幸いです構文」と英語、中国語表現が対応する場合と非対応の場合を整理し、その理由に対する分析・考察を行う。5 節は全体のまとめである。

２．行為指示的表現における〈懇願〉の位置づけ

柏崎（1993）は、行為指示的表現に対し詳細な体系的分類を試みたものだが、そこでは［懇願］は、図 1 が示す通り、［依頼］に連続する場所に位置づけられている[2]。すなわち、聞き手負担、話し手利益の行為指示において、聞き手の選択性・随意性が［依頼］よりも大である場合とされている。

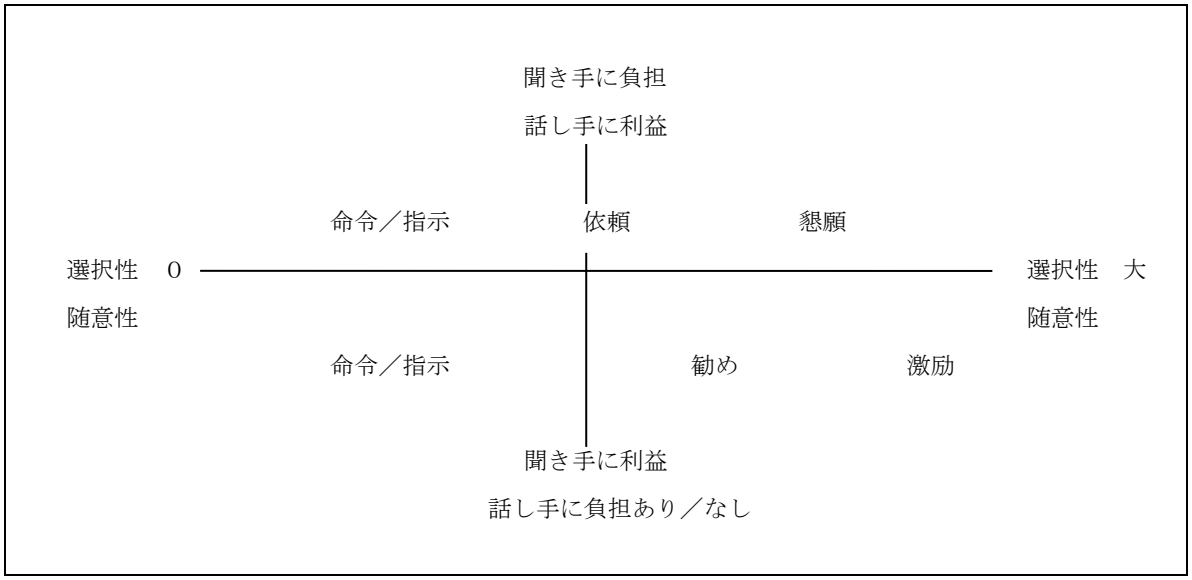

図 1　行為指示型表現の位置づけ（柏崎 1993：32）

蓮沼（2022）では、［依頼］［懇願］の違いを聞き手の「選択性」「随意性」の尺度によって捉える柏崎（1993）の基準を不十分と見なし、〈懇願〉を柏崎よりも狭いものに限定し、以下のように規定した。

実現を強く促す命令形の使用がいっそう適切となる（蓮沼 2020）。なお、「放念」は意志での制御が自在とはいえないため、〈勧め〉と〈願望〉の中間的位置にあると考え、〈勧め～願望〉というラベルを付した。「～」は二者が連続的で截然とした区別が困難なことを表す。

[2] 柏崎（1993）では発話行為のラベルに［ ］を用いているが、本稿では〈 〉を用い、それぞれが柏崎のラベル、本稿のラベルであることを示す。

(1) 〈懇願〉の規定[3]

実現に対する話し手の切実な願望・希求や、実現可能性に対する悲観的想定が存在する状況で、倫理的・社会的・状況的に支配的な力をもつ聞き手の温情に全面的に依存し、切羽つまった窮状からの救済や、話し手の責任に起因する否定的事態（迷惑・非礼・過失など）に対する赦免・容認を乞うような発話を典型とする。神仏に対しての救済・赦免の懇願は上記の派生的機能であり、〈祈願〉と呼ぶ。

(1)の規定に基づけば、〈懇願〉に使用される言語形式は、「どうかご／お～ください」がもっとも典型的かつ適切で、「すみませんが～くださいませんか」などの使用は不適切となる。

(2) ご迷惑の段、なにとぞご容赦｛ください／*くださいませんか｝。

(3) ｛どうか／*すみませんが｝、窮状をお察し｛ください／*くださいませんか｝。

(4) ｛どうか／?なにとぞ｝命だけはお助けください。(極端な窮状)

「お許しいただければ幸いです」も、「お許しください」に変えれば自然になることから、同様の事情の存在が推察されるが、本稿では実例の使用実態の観察に基づきこの点の解明を目指す。

具体的な分析方法として、本稿では「条件節＋幸いです」のコーパスにおける使用実態の調査、およびこれと類似性をもつ英語構文と中国語表現の対照という 2 つの方法を用い、「お許しいただければ幸いです」に感じる違和感の発生原因の解明を試みることにしたい。

３．調査の概要と結果

この節では、本稿が実施した調査の具体的方法とその結果を紹介する。3.1 では調査の概要を紹介し、3.2 でその具体的方法と結果について解説する。

３．１　調査の概要

本稿では以下の 3 種類の調査を行った。

① 日本語のコーパス（BCCWJ）における使用実態の調査

[条件節＋幸いです]の条件節で使用される動詞や構文の機能の特徴の調査

② 英語のコーパス（BNC; COCA）における類似構文の調査

British National Corpus (BNC)、および Corpus of Contemporary American English (COCA) の 2 つを使用し、[appreciate it if V] [grateful if V]の条件節で使用される動詞や構文の機能の特徴の調査[4]

典型的構文：[I/we would appreciate it if you could/would V]

[I/we would be grateful if you could/would V]

③ 日本語と中国語の対訳例の観察

実用書を用い、ビジネスメールで使用された「幸いです構文」の中国語訳の観察

３．２　調査方法と結果

[3] 本稿では、音声言語・書記言語の別に関わらず、当該表現の話し手・書き手を「話し手」で、聞き手・読み手を「聞き手」で表すことにする。

[4] 本稿では［条件節＋幸いです］［appreciate it＋if 節］［grateful＋if 節］が使用された構文の略称として、それぞれ「幸いです構文」「appreciate 構文」「grateful 構文」を用いる。

３．２．１　日本語の「幸いです構文」

日本語の調査は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) の全データを対象に行った。検索条件、ヒット件数は以下の通りである。

① 検索条件：短単位・語彙素検索

② キー：語彙素「幸い」

③ 後方共起 1：キーから 1 語　語彙素「です」

④ ヒット件数：587 件

総ヒット数 587 件から「幸いでした」「幸いでしょう」「NP は／が幸いです」入力ミス等を除外した結果、「ば・と・たら」条件節に「幸いです」が続く 543 例を得た。

表 1 は、「X＋幸いです」の条件節 X で使用された述語の文体と条件形式の分布を整理したものである。表 2 は、条件節 X に使用された述語の統語・意味的特徴を整理したものである。

表 1　「X＋幸いです」の X に使用された条件形式の分布

接続形式	条件節述語の文体	使用数	小計	割合
ば	普通体（すれば）	377	377	69.4%
と	普通体（すると）	95	110	20.3%
	丁寧体（しますと）	15		
たら	普通体（したら）	46	56	10.3%
	丁寧体（しましたら）	10		
	合　計		543	100.0%

表 2　「X＋幸いです」の X に使用された述語の統語・意味的特徴

述語の種類		例	使用数	割合 1	割合 2
授受動詞（本動詞・補助動詞の合計）	受け取り手が主語	いただける	313	57.6%	61.1%
		いただく	10	1.8%	
		もらえる	9	1.7%	
	与え手が主語	くださる	14	2.6%	3.5%
		くれる	5	0.9%	
授受動詞以外の動詞		なる	148	27.3%	34.8%
		その他の動詞	41	7.6%	
動詞以外		ない、Ｎでない	3	0.6%	0.6%
合　計			543	100.1%	100.0%

BCCWJ で使用されている「幸いです構文」の特徴を整理すれば以下の通りである。

1. 書き言葉の依頼表現の構文としての定型化が進んでおり、除外例の比率が少ない（587 例中 44 例で約 7.5%）。
2. 条件節で使用される接続形式の使用比率は、「ば＞と＞たら」の順で「ば」の比率がもっとも高い

（約 7 割)。「と」（約 2 割）「たら」（約 1 割）がこれに続く（書き言葉の特徴)。

3. 条件節で使用される述語の品詞は､動詞肯定形がほとんどで､否定形はほとんど使用されない(「気にしないでいただけたら」「落とし穴に陥らなければ」の 2 件のみ)。動詞以外では名詞述語の否定形「最悪の結果でなければ」1 件、形容詞の「なければ」2 件の計 3 件にとどまる。
4. 動詞としては、本動詞・補助動詞として使用された授受動詞の合計で、謙譲語の可能形の「いただける」がもっとも高い使用率を示す（6 割弱)。一般的に聞き手が主語の「くださる」「くれる」よりも、話し手が主語の「いただく」「もらう」の方が丁寧とされるが、それを数値が示している（丁寧な依頼構文の特徴)。授受動詞以外の動詞では「なる」の使用が目立つ（3 割弱)。
5. 条件節に「許す」が使用された例はゼロである[5]。

「幸いです構文」の基本機能は、望ましい事態 X の実行・実現を希求する話し手の〈願望〉を表すもので、この構文が発揮する〈依頼〉〈勧め〉といった行為指示機能[6]は、基本機能からの派生と捉えることが可能である。すなわち、〈依頼〉は、話し手利益の事態 X が聞き手によって実行・実現されるよう話し手が求める場合に派生される機能であり、X には通常、意志動詞が使用される。〈勧め〉は、聞き手の利益となる事態の実現を話し手が希求する場合に派生される機能で、情報や物品、楽しみの対象や機会など、聞き手の利益となる事物の提供を表す動詞が用いられる。〈願望〉は、X の実現に聞き手が関与せず、単純に話し手にとって望ましい事態を表す場合であり、この構文の基本的機能が発揮される場合である。

「幸いです構文」は〈指示・命令〉には使用されない。直接的な働きかけの緩和・抑制がこの構文を使用する本来の動機・目的だからである。また条件節と主節の主語はほとんどの場合明示されない。「いただける」など、授受動詞の使用により、恩恵の与え手・受け手を容易に特定することが可能だからである。これは後述する英語との大きな違いである。以下に〈依頼〉〈勧め〉〈願望〉を表す代表例を順に挙げておく。

(1)～(3)は、〈依頼〉の例である。

(1) なんか段々と学校が苦痛になってきました。アドバイスを頂けたら幸いです。

(Yahoo!知恵袋)

(2) 多摩センター～橋本付近で、耳鼻科を探しています。診療時間もあわせて教えていただける

---

[5]「(御|お)(許|赦)し」で文字列検索をかけたところ、638 件がヒットしたが、「お許しいただければ幸いです」の使用はゼロであった。「お許しいただければ」が 4 例あったが、その 1 つは「お許しいただければと思う」、残りの 3 例は本来の条件節としての使用であった。一番多く出現していたのは「お許しください／下さい」とそのバリエーションで、これが全体の半数以上を占めていた。

なお、「(御|ご)容赦」で文字列検索を行ったところ、「ご容赦いただければ/頂ければ幸いに存じます」という例が 2 例ヒットした。その 1 例を以下に挙げておく。

（ｉ）何分にも、ふたりに任せておりますので、不行き届きのこともあるかと存じますが、何卒ご容赦いただければ幸いに存じます（小林淳『海外オリジナルウエディング』2002)

[6] 行為指示型の発話機能の分類は、図 1 に示した柏崎（1993)、および牧野（2009)、姫野（2012）などを参照した。姫野（2012:185）の体系は、次の表の通りである（柏崎の図 1 との対応関係が見えやすくなるように、元の表のレイアウトに変更を加えた)。

	話し手決定権	聞き手決定権
話し手受益	指示・命令	依頼
聞き手受益		勧め

と幸いです。 (Yahoo!知恵袋)

(3) 次に、ちょっと視点を変えまして、金融商品に対する情報提供義務について、銀行局長、お答えいただければ幸いです。 (国会会議録 第142回国会 1998)

(3)は、対面場面での音声言語を文字化した国会会議録の例だが、表現は丁寧ではあるものの高圧的な態度が感じられ、慇懃無礼な印象がある。

次の(4)～(7)は〈勧め〉の例である。

(4) 最後になりますが、弊社では、お客様にオンラインサービスを安全にご利用いただくことを目的として、以下のページをご用意しております。セキュリティ対策に効果的な内容をわかりやすくまとめておりますので、ご参照いただき、お役立てくださいますと幸いです。 (Yahoo!ブログ)

(5) 画像はクリックすると拡大します。どうぞ、拡大画像でお楽しみ頂ければ幸いですｗｗ～♫～ (Yahoo!ブログ)

(6) いろいろと不自由をおかけしました。まずは３日間のご旅行を、それなりに楽しまれたご様子で何よりです。また、これに懲りず、ご利用いただければ幸いです。 (Yahoo!ブログ)

(7) なお、ささやかな内祝の品を別便で送らせていただきました。ご笑納いただければ幸いです。 (関口あゆみ『真心を伝えるお礼の手紙・はがき文例集』2002)

最後は〈願望〉の例である。

(8) 開発元の下記のページをご参照ください。ご参考になれば幸いです。 (Yahoo!知恵袋)

(9) ようやく転職することができました。転職したいと考えている人の助けになれば幸いです。 (Yahoo!ブログ)

(10) あ、「おはよーございます」は起きたとかじゃなくて業界挨拶みたいなノリだと解釈していただけると幸いです。 (Yahoo!ブログ)

(11) 年末年始は実家に帰省しネットのない世界にいたのでブログ更新＆訪問がお正月ペースですが今年もブログを通じて皆様と楽しく交流が持てたら幸いです♪ (Yahoo!ブログ)

(12) あと期待度や私のコメントはあくまで個人的なものですので気にしないでいただけたら幸いです (Yahoo!ブログ)

(13) 人に頼らなければならないという体験の中で、不安や不満の落とし穴に陥らなければ幸いです。 (ルドルフ・プロット『「星の王子さま」と永遠の喜び』2002)

(8)～(11)は事態の実現、(12)(13)は非実現を希求する〈願望〉の例である。利益の受け手は、話し手・聞き手・その両者・不特定他者など、さまざまな場合がある。条件節に使用される動詞は無意志動詞・可能動詞や動詞否定形など、制御性をもたない、あるいはそれが低い動詞である。条件節に否定述語が使用された例は少なく、(12)(13)は全5例のうち、動詞の否定形が使用された2例である。

３．２．２　英語の類似構文

日本語の「幸いです構文」に類似する英語表現に条件節を伴う感謝表現がある。Leech (2014) が“Appreciative opening”(感謝表現を使った切り出し) と呼ぶもので、“appreciate it if”“grateful if”が使用された次のような例がこれに該当する[7]。

[7] Leech (2014) の説明や例文の和訳は、同書の日本語訳である田中 (監訳) (2020) を参照した。

(14) *I'd appreciate it* if you came along tonight. ([BNC：文学作品のテクスト] 今夜つきあってくださるとうれしいんだけど。) (Leech2014；田中監訳 2020：239)

(15) *I'd be very grateful* if you would investigate this. ([BNC：地方議会に宛てられた手紙] これを調査していただけると非常にありがたい。) (同上)

(16) I'd be grateful for *your advice*. ([BNC] アドバイスをもらえるとうれしいです。) (同上)

Leech によれば、上記の表現は日常会話では珍しく、正式な手紙やビジネス・レターによりふさわしいフォーマリティがあり、語用論化 (pragmaticalization) が進んだものとされる。仮定的状況の意味合いが弱められており、主節の仮定法と if 節が一致しない場合や、(16)のように、名詞句が for によって導入されることもある。neg-politeness が支配している依頼に pos-politeness の要素を持ち込んでおり、*really, very, so, most* など、強意の副詞が使用されることからもこのことが裏付けられるとされる[8]。

本稿では、Leech の説明を参考にしながら、上記の英語構文について British National Corpus (BNC) と Corpus of Contemporary American English (COCA) という、イギリス英語、およびアメリカ英語を収録した 2 種類のコーパスを用い[9]、定型化が進んだ英語の 2 構文の使用実態の調査を実施した。以下ではその手順と結果を手短に紹介しておきたい。

まず、それぞれのコーパスに対し“appreciate it if”および“grateful if”という語列検索をかけ、得られた例文を 1)の基準よって絞り込み、絞り込み後の例に対し、以下の 2)～5)の点について観察を行った。

1) 対象例選択の基準
主節主語が 1 人称の *I* か *we* で、if 節の主語が 2 人称の *you*、あるいは 1 人称の *I* か *we* の場合で、主節と if 節に助動詞・動詞の過去形が用いられたもの[10]。助動詞に *would, should, could* のような非短縮形が使用された例に限定し、*I'd* のような短縮形の例は対象外とする。

2) 構文が担う発話機能

3) if 節の述語での否定形の使用状況

4) if 節で許可の意味をもつ動詞 *forgive* の使用の有無

5) 「幸いです構文」との相違

具体的な解説に入る前に、調査で明らかとなったアメリカ英語（＝米語）とイギリス英語（＝英語）

---

[8] Leech (2014) の neg-politeness, pos-politeness は、それぞれ以下のような性質のことを指し、Brown and Levinson(1987)の用語とは概念が異なるため注意が必要である。
neg-politeness：無作法となる可能性のある原因を減じる、もしくは軽くすること
pos-politeness：何らかの肯定的な価値を聞き手に与える、もしくは割り振るもの

[9] どちらのコーパスも English-Corpora.org (https://www.english-corpora.org/) で提供されている均衡コーパスである。BNC には 1 億語のイギリス英語（期間 1980 年代～1993 年）、COCA には 10 億語のアメリカ英語（期間 1990 年～2019 年）が収録されている。

[10] 採取された 2 つの構文の例には、主節と if 節のテンスが一致しないものや、主節と if 節の動詞・助動詞に「叙実法」(indicative mood) の形式である現在形が使用されている例も散見される。Leech (2014:163, 田中監訳 2020:238 注 20) によれば、非仮定的 (nonhypothetical) な *I will be grateful* の BNC での出現頻度は、*I would be grateful, I'd be grateful* の 1/30 の低さとされる。つまり、定型表現として慣用化しているのは後者の場合であり、本稿が過去形の例に限定するのはこの点の考慮に基づく。なお、本稿では英語の条件節の分類や「仮定法」(subjunctive mood)「叙実法」(indicative mood)の区別、およびそれぞれで使用される述語形式の対応関係については、中野 (2016) を参照した。

における「appreciate 構文」と「grateful 構文」の顕著な使用傾向の相違を指摘しておきたい。

表 3　BNC と COCA における「appreciate 構文」「grateful 構文」の出現頻度

	appreciate it if			*grateful if*		
CORPUS	FREQ・ALL	WORDS(M)	PER MILL	FREQ・ALL	WORDS(M)	PER MIL
BNC	23	100	0.23	318	100	3.18
COCA	901	993	0.91	200	993	0.20

表 3 の FREQ・ALL は総頻度、WORDS(M)は百万語単位の単語数、PER MIL は百万語当たりの頻度（pmw）を表す。コーパスの収録語数では、COCA は BNC の 10 倍の規模をもつが、PER MIL（pmw）を見ると、「appreciate 構文」では BNC が 0.23、COCA が 0.91 で、米語は英語の約 4 倍の出現頻度を示す。一方、「grateful 構文」の pmw は、BNC が 3.18、COCA が 0.20 で、英語は米語の約 16 倍の頻度を示し、米語と英語における 2 つの構文の顕著な使用傾向の相違が見て取れる。なお、使用されるジャンルの点では 2 構文に共通性が認められ、どちらもフィクションやドラマ・映画などのジャンルで高い使用頻度を示すのに対し、新聞や学術的な文章ではそれが低いという特徴をもつ。

以上の点を念頭に置き、以下ではそれぞれの構文別にその特徴を観察しておきたい。

1)　Appreciate 構文

「appreciate 構文」は BNC での使用が極端に少ないため、以下では COCA の例に的を絞り観察結果を整理しておく。いずれの文型でも *I* は *we* よりも高い頻度で使用されており、そのことを［we］で示す。文型 D での *we* の使用はまれで、*We'd* を含めても 4 例程度である。

① 典型的文型

【I［we］**would** appreciate it if **you could** V】(A)

【I［we］**would** appreciate it if **you would** V】(B)

【I［we］**would** appreciate it if **I/we could** V】(C)

【I［we］**would** appreciate it if **you wouldn't/didn't** V】(D)

② 構文が担う発話機能

基本的機能は〈依頼〉〈願望〉だが、2 者は連続的である。各例文末に①の文型のタイプの記号を添える。なお、日本語訳は筆者による。やや疎の関係の相手へのメール・書簡、あるいは改まった話しことばでの使用を想定し、丁寧体で訳してある。

(17) I would appreciate it if you could go down as soon as possible. (A)
「できるだけ早く行っていただけると有り難いのですが」〈依頼〉

(18)…we would very much appreciate it if you would consider purchasing one.　(B)
「ご購入をご検討いただければ幸いです」〈依頼〉

(19) I would very much appreciate it if I could go with just you and not anyone else.　(C)
「他の誰でもなくあなただけといっしょに行けると本当に嬉しいのですが」〈願望〉

(20) I would really appreciate it if we could sit down and have a meal together. (C)
「食事をご一緒できたら本当に嬉しいのですが」〈願望〉（勧誘に連続）

③ 典型的文型の D に示した通り、if 節に述語の否定形が使用される場合がある[11]。「～しないでくれたら有り難い」「～ないでほしい」といった、聞き手に対し行為を実行しないことを望む話し手の〈願望〉ないしは〈依頼〉を表す。

(21) I would appreciate it if you wouldn't speak to me that way. (D)

「私にそんな言い方をしないでほしいんですけど＝しないでいただけませんか」

〈願望～依頼〉[12]

(22) I would very much appreciate it if you didn't disturb my meal. (D)

「私の食事の邪魔をしないでいただきたいんですけど＝食事の邪魔をしないでくださいませんか」 〈願望～依頼〉

④ 容認の *let* の使用例はあるが、*forgive* の使用は観察されない。

(23) I would appreciate it if you would let me go downstairs and do my work…

「下の階に行って自分の仕事をさせていただきたいんですが＝させていただけませんか」

〈願望～依頼〉

⑤ 「幸いです構文」との相違

〈願望〉〈依頼〉で使用される点は共通するが、〈勧め〉に使用されない点、および if 節で比較的自由に否定形述語が使用される点が相違点である。

2) Grateful 構文

① 典型的文型[13]

【I [we] **would/should** be grateful if **you could** V】(A)

【I [we] **would/should** be grateful if **you would** V】(B)

② 構文が担う発話機能

基本的機能は〈願望〉〈依頼〉だが、聞き手の意志で制御可能な行為に使用される傾向があり、婉曲な〈依頼〉に解釈される傾向が強い。

(24) I should be grateful if you could clarify the above points. (BNC) (A)

「上記の点について明確にしていただけますと幸いです」〈依頼〉

(25) I would be so grateful if you could look this contract over. (COCA) (A)

「この契約書にお目通しいただければ幸いに存じます」〈依頼〉

(26) We would be very grateful if you would join in the discussions here. (COCA) (B)

「ここでの討論に加わっていただけると大変嬉しいのですが」〈願望～依頼〉

---

[11] COCA には、主節主語が *I/we* で if 節に *you wouldn't/didn't/weren't* が使用された例が 121 件ほどあり、肯定形の例より数は少ないものの、決して低い頻度ではない。使用される動詞は、*say, speak, tell, mention, yell* など、発言や伝達を表すものが目立つ。

[12] 〈願望～依頼〉の「～」の意味については、注 1 を参照されたい。

[13] if 節の主語に *I, we* が使用された例は非常に少なく、以下の例以外に数例が該当する程度である。いずれも〈願望～依頼〉を表しているケースと考えられる。(ⅰ)～(ⅲ)の if 節で助動詞の *could* が用いられているのは、日本語で話し手の受益を表す場合に動詞の可能形が使用されることと共通する特徴といえる（例「すぐに｛話せる／教えていただける｝とうれしいんですが」）。

(ⅰ) I'd be real grateful if I could have your number, so I could call you. (COCA)

(ⅱ) I would be very grateful if I could be told on what date they were told. (BNC)

(ⅲ) But, I'd be really grateful if we could talk with van soon. (COCA)

(ⅳ) I should be grateful if we take the arrangement up until the end of the calendar. (BNC)

(27) I should be grateful if you would acknowledge the receipt of this letter. (BNC) (B)

「この手紙を受領した旨、ご返信いただければ幸いです」〈依頼〉

③ if 節で述語の否定形はまれにしか使用されない（「appreciate 構文」との相違）

(28) I should be most grateful if you didn't tell anyone. (COCA)

「誰にも口外しないでいただければと思います」〈願望～依頼〉

(29) I will be grateful if you don't mention this to anybody[14]. (BNC)

「このことについては誰にも言わないでほしいのですが」〈願望～依頼〉

④ 容認の *let* の使用例はあるが、*forgive* の使用は観察されない。

(30) I would be so grateful if you would let us see your house. (COCA)

「お宅を拝見させていただけますと大変嬉しく存じます」〈依頼〉

⑤ 「幸いです構文」との相違

〈願望〉〈依頼〉に使用される点は共通するが、〈勧め〉に使用されない点で異なる（「appreciate 構文」「grateful 構文」の共通点）

３．２．３　中国語の対訳例

中国語の改まった会話や書き言葉での〈依頼〉は、行為指示を語彙的意味としてもつ動詞や疑問文によって表されるのが普通で（cf. 林 2020）、日英語が有する条件文が定型化した構文は中国語では使用されない。機能シラバスを採用している中国語教材は身近に見当たらなかったため、ビジネスメールの書き方を扱った以下の 2 冊を調査資料として用いることにした。どちらも使用場面や発話機能に注目し、日本語との対応関係が示されており、本稿の調査目的に有用であると判断したからである[15]。

Ａ．CC アカデミー・大羽りん・趙青（2021）『ビジネスで１番よく使う中国語 E メール＆SNS』J リサーチ出版

Ｂ．林　松濤（2020）『大人なら使いたい中国語表現～メールやビジネスシーンで恥をかかないために～』三修社

調査は基本的に書籍Ａを使用し、日本語のメール文に現われた「幸いです構文」の例に対する中国語訳を観察した。中国語のニュアンスについてはＢの記述も参照した。この調査で明らかとなった事実は以下の通りである。

---

[14] (29)は if 節と主節に述語の現在形が使用された叙実法（indicative mood）の例で、この構文が仮定法（subjunctive mood）以外でも使用される場合があることが分かる。ただし条件節に否定形が使用された例はどちらのコーパスでもまれで、この点はその使用が比較的自由な「appreciate 構文」との大きな相違である。

[15] どちらの書籍も、メールの原文そのままではなく、実例を編集し日本語話者向けに教材化したものと考えられるが、この 2 冊を資料として採用した理由は、著者たちの日本語・中国語の文章能力に信頼がおけると判断したからである。Ａの著者の 1 人の大羽りん氏は、台湾人を父に、日本人を母に 1968 年に中国上海で生まれ、10 歳までは家庭でも日本語を使用しない環境で中国人として成長。帰国後も北京師範大学の付属高校に短期留学。慶應義塾大学文学部東洋史学科を卒業後は、総合商社で中国語の翻訳・通訳の仕事に従事し、現在は翻訳・通訳会社の取締役として活躍中である（大羽りん『これだけは知っておきたい中国人の常識と非常識』武田ランダムハウスジャパン（2011）を参照）。共著者の一人の趙青氏は南京大学日本語科卒。日中企業で翻訳・通訳に従事。日本の外国語専門学校で中国語の翻訳・通訳の講師も務める。Ｂの著者の林松濤氏は、復旦大学で物理、同大学院で哲学を学び、1995 年に来日し東京大学の博士課程で思想史を研究。現在は中国語教室・翻訳工房「語林」の代表を務める。

1. 日本語の「幸いです構文」の中国訳は“请”qǐng“烦请”fánqǐng“敬请”jìngqǐng“恳请”kěnqǐng（～N を／V ようお願いします）や“希望”xīwàng（～N を／V よう希望します）など、中国語の動詞を使った文に翻訳され、条件文に訳された例はまれである。
2. 「幸いです構文」は中国語の〈依頼〉〈勧め〉〈願望〉を表す表現と対応関係をもつが、〈許しの懇願〉には基本的に対応しない。例えば、許しを乞う“恳请原谅”kěnqǐng yuánliàng “请谅解”qǐng liàngjiě “希望能得到谅解”xīwàng néng dédào liàngjiě などは、林（2020）では「どうかお許しください」「お許しくださるようお願いします」「何とぞお許しいただきたくお願い申し上げます」などに訳され、「幸いです構文」には訳されていない（その例外と考えられるケースについては後述する）。

以下では「幸いです構文」に対応し、〈依頼〉〈勧め〉〈願望〉を表していると考えられる中国語表現を挙げ解説を行う。

まず(31)～(33)は〈依頼〉の例である。“烦请”（お手数ですがお願いします）、“恳请”（心よりお願いします）、“敬请”（謹んでお願いします）などの中国語の動詞が対応している。語頭の“烦・恳・敬”は相手に対する話し手の配慮を添えるもので、3 つの動詞はいずれも書きことばの依頼表現でのみ用いられるとされる（林 2020：37）。

(31) a．お忙しい中、恐縮ですが、できるだけ早くご返信いただければ幸いです。
　　b．烦请在您百忙之中尽快给予回复，谢谢！（大羽ほか 2021：86-87）

(32) a．ご検討いただき、できるだけ早くご返信いただければ幸いです。
　　b．恳请贵方商讨后尽快回复。（同上：100-101）

(33) a．また、製品を引き取りに来ていただける場合は、分割して納品することも可能です。ご検討いただければ幸いです。
　　b．此外，如果贵方能够上面提货的话，我方可以考虑分批交货，敬请商讨为盼。（同上：98-99）

次の(34)(35)は聞き手の利益となりうる行為の〈勧め〉を表す場合で、中国語ではどちらにも“请”が使用されている[16]。

(34) a．何かご意見、ご提案がありましたら、お気軽にいつでもご連絡いただければ幸いです。
　　b．如有意见或建议，请随时告诉我们。（同上：164-165）

(35) a．今後の業務連絡についてはこちらのメールアドレスをご利用いただければ幸いです。
　　b．今后的业务联系，请使用我的企业邮箱。（同上：226-227）

(36)(37)は〈願望〉を表す場合と考えられ、中国語では“希望”が使用されている。話し手の利益となる事態の実現を聞き手に求めているという点では〈依頼〉と共通し、両者の連続性を示唆するものである。

(36) a．この度の遅延については、心よりお詫び申し上げます。ご理解いただけますと幸いです。
　　b．对于此次延期，深表歉意！希望能够得到您的理解。（同上：182-183）

(37) a．対面での面接の場合には、出張のため 5 月 10 日から 20 日は避けていただければ幸いで

[16] 話し手利益の行為指示の場合、単独で使用された“请”には指示・命令のニュアンスがあり、目上から目下への一方的指示でなら使用可能だが、聞き手が選択権をもつ〈依頼〉での使用は通常、不適切である。一方、聞き手利益の〈勧め〉はこうした制約を受けず単独の“请”の使用が可能である（以上は中国語母語話者の談）。“请”のこうした用法特性は、日本語の「～てください」と共通する特徴ではないかと思われる。

す。

b．线下面试的话，由于出差的原因，希望能避开5月10日-20日。　　（同上：266-267）

さてここで、例外の可能性が疑われる例について考えておきたい。「幸いです構文」は、基本的に〈許しの懇願〉には使用されないことを上で指摘したが、大羽ほか（2021）に、その例外と思われる例が挙げられていた。(38)がそうした例である。

(38)［報告書の数値の誤りを詫びるメール］

a．この度はこちらの確認不足でご迷惑をおかけしました。申し訳ございません。今後はより一層事例のチェックを行いたいと思います。お許しいただければ幸いです。

b．这次因我们确认不周，给您工作添麻烦了，十分抱歉。望您谅解。　　（同上：148-149）

(38a)が実例かどうかは不明だが、通常は「何卒ご容赦ください」などの方が自然なケースである。「ご理解のほどよろしくお願いいたします」といった挨拶程度の意味でメールの結びに用いられる表現だが、〈許しの懇願〉というほど大げさなものではない。一方、中国語の“望您諒解”は母語話者によれば許しの懇願の意図を強く表す表現とのことである。もしかしたら(38a)の日本語表現は、こうした中国語のニュアンスを汲んだ中国語からの意訳である可能性も否定できないが、「お許しいただければ幸いです」は日本語では通常使用されないもので、BCCWJでの使用はゼロである（cf.3.2.1）[17]。

最後に、中国語の条件文が、〈願望〉を表していると考えられる例を観察しておきたい。

(39)［北京を訪問し、代表取締役の杜氏に会う期日に関する日本側の代表取締役の井上氏からの打診メール］

a．訪問時期は、10月の上旬又は中旬と考えておりますが、ご都合はいかがでしょうか。ご承諾いただければ幸いです。

b．访问日期现考虑10月上旬或中旬，不知哪一个时间对您最合适？如蒙应允，荣幸之至！

直訳：承諾を得られるなら、光栄の至りです。(同上：162-163)

中国語母語話者によれば、(39b)の下線部は中国語では常套句的に使用される表現とのことである。相手を高く待遇し話し手の〈願望〉を表す改まった丁寧な表現と考えられるが、〈依頼〉〈勧め〉〈願望〉を基本的に動詞で表す中国語において、条件文が社交辞令の常套句として定型化した事例のひとつではないかと思われる。

---

[17] 林（2020：67）は、相手に与えた損失に対する詫びの表現として、中国語の(ｉb)に対応する表現としては日本語の(ｉa)を充てており、「幸いです構文」は使用していない。

（ｉ）a．何とぞお許しいただきたくお願い申し上げます。

b．恳请贵方原谅。(直訳：貴方のお許しを懇請します)

ちなみに『中日辞典』では、“谅解”liàngjiě と“原谅”yuánliàng には以下のような違いがあるとされる（第2版の電子辞書版、小学館／北京・商務印書館）。

①“谅解”は文句を言ったり批判しないようにすることに、“原谅”は過ちを責めないことにそれぞれ重点がある。

②“谅解”の対象は他人の意見であることが多く、それは誤っていても、正しくてもよい。“原谅”の対象は他人のものでも自分のものでもよいが、誤りや過失などを指すことが多い。

私見によれば、日本語の「ご容赦ください」は「お許しください」ほどの重い意味はなく、軽い詫びの気持ちをやや改まって述べる場合の書き言葉の表現である。和語の「お許し」が重大な過失や非礼といった話し手の強い自責の念を伴うのとは対照的に、漢語の「ご容赦」は儀礼的な詫びに使用される傾向がある。これは漢語・和語がもつ位相的意味の一般的傾向とは逆のケースであり興味深い。なお、これに関連する点については、注5も参照されたい。

４．分析と考察

この節では 3 節での観察結果に対する分析と考察を行う。3 節で明らかとなった事実を整理すれば以下の通りである。

1. 日本語の「幸いです構文」が発揮する発話機能は、〈願望〉〈依頼〉〈勧め〉である。〈依頼〉〈勧め〉は、その基本機能である〈願望〉から派生される機能と考えることができる。切実に相手に許しを乞う〈許しの懇願〉での使用は不適切で、この場合は命令文を使用した「許してください」「お許しください」などの使用が適切である。条件節には基本的に肯定形述語が使用され、否定形述語の使用はまれである。
2. 英語の「appreciate 構文」「grateful 構文」は「幸いです構文」と類似する機能をもち、〈願望〉〈依頼〉を表すが、〈勧め〉の機能はもたない。「appreciate 構文」では、if 節の述語に肯定形・否定形のどちらも使用されるが、「grateful 構文」では肯定形が使用され、否定形の使用はまれである。2 つの構文のどちらも〈許しの懇願〉には使用されない。
3. 英語の 2 構文では、感謝の気持ちを強める *very (much), most, so, really, extremely* などの強意副詞がよく使用される。一方「幸いです構文」では強意副詞は使用されない（本稿の調査結果では使用例はゼロ）。使用される副詞的表現としては「お好みで」「ぜひ」「どうぞ」（〈勧め〉と共起）、「ちょっと」（〈依頼〉と共起）などがあるが、その頻度はあまり高くない。
4. 中国語は日本語・英語とは異なり、行為指示表現に定型化した条件構文は使用されず、〈依頼〉〈勧め〉は行為指示を表す基本的動詞の“请”によって表される。“烦请”“敬请”“恳请”は、“烦・敬・恳”が“请”に添えられたもので、聞き手に対する話し手の配慮や丁重さを伴う行為指示を表す。〈願望〉は通常、動詞の“希望”で表されるが、“希望”が〈依頼〉〈勧め〉に使用されることもある。“请”がもつ直接的な働きかけのニュアンスを緩和する効果があるからだと考えられる。〈許しの懇願〉には“请～原谅”“请～谅解”“希望得到～原谅”（林 2020：67-68）などが使用される。これらの日本語訳としては「お許しください」「お許しくださるようお願い申し上げます」などが適切で、「お許しいただければ幸いです」は不自然である。

上記の記述に対しては問題を以下の 5 点に絞り、分析・考察を行うことにしたい。

1) 英語の 2 構文が〈勧め〉に使用されない理由
2) 「幸いです構文」に強意副詞が使用されない理由
3) 「幸いです構文」と英語の 2 構文が〈許しの懇願〉に使用されない理由
4) 日英 3 構文の仮定節における否定形述語の使用に対照性が生じる理由
5) 学習者の誤用の原因

まず、1)の英語の 2 構文が〈勧め〉に使用されない理由であるが、これは至って単純なものである。英語の 2 構文の主節述語はどちらも話し手の感謝の気持ちを表すが、〈勧め〉は話し手が何らかの負担を負うケースであり、自己負担への感謝は通常両立しない行為だからである。また、〈勧め〉は自らの好意に基づきサービスや物品の提供を行う行為だが、こうした自らの好意的行動に対し感謝することは、自己分裂的であり常識から見ても逸脱的である[18]。一方、日本語の「幸いです」は、事態の実現を

[18] 英国在住のクロス尚美氏のメールでの情報によれば「ご笑納いただければ幸いです」「お役立ていただけ

「幸運」と捉える話し手の態度を表すが、自己負担が聞き手の利益・幸福の実現に結びつくことを自らの「幸運」と捉えることは、両立可能でありそこに矛盾は感じられない。英語とは対照的に「幸いです構文」が〈勧め〉に使用されるのはそのためだと考えられる。

次に 2)の強意副詞の使用における英語と日本語の対照性だが、これは〈依頼〉という行為の特性と関連づけて説明可能である。すなわち、英語において強意副詞が使用されるのは、自己利益となる事態の実現を聞き手に求める場合は、深い謝意を表明し聞き手の積極的な協力を促すことが、目的達成への近道だからである。一方、日本語の「幸いです」は、話し手の利益となる事態が実現されれば「幸運である」といった受動的な評価を表し、事態実現に対する話し手の控え目な願望を淡々と述べる表現である。つまり「幸いです構文」がもつこうした意味特性と強意副詞の機能は本来的にそぐわない性質のものであり、その使用が自動的にブロックされているケースと考えることが可能である。

3)の「幸いです構文」と英語の 2 構文が〈許しの懇願〉に使用されない理由は、希求の対象となる事態が表す意味の対極性に求めることができそうである。すなわち〈許しの懇願〉は、過失など、既実現の望ましくない事態 X に対する赦免を求めるものであるのに対し、「X ならば幸いです」“appreciate it if X”“grateful if X”における X は、いずれも実現（否定述語では非実現）が望まれる未実現の事態を表す。つまり日英 3 構文と〈許しの懇願〉が対象とする事態 X は、「未実現」か「既実現」か、「望ましい」か「望ましくない」かという点での対極性を示し、望みと悔やみが担い示し反対方向のベクトルによって表すことのできる、相互排除的な意味関係をもつ。日英 3 構文が〈許しの懇願〉に用いられない理由は、こうした X の意味特性の対立・不適合がその根本的な原因になっているように思われる[19]。

次は、4)の仮定節における否定形述語の使用に対照性が生じる理由である。「幸いです構文」と「greteful 構文」の仮定節では基本的に肯定形述語が使用され、否定形述語の使用はまれである。一方「appreciate 構文」では、否定形述語も比較的自由に使用される。「appreciate 構文」と前者 2 構文においてこうした相違が生じる理由だが、そのひとつは「幸いだ」“grateful” が形容詞であるのに対し“appreciate”は他動詞であるという品詞の相違が影響している可能性がある。他動詞の“appreciate”が事態の（非）実現に対する話し手の願望・謝意の能動的・遂行的表明を表すのに対し、「幸いです」“grateful”は実現が望まれる肯定的事態に対する話し手の価値評価の記述という表現上の特性を有しており、こうした述べ方の相違がもたらす用法の相違として説明可能ではないかと思われる[20]。

最後に、本稿のテーマ選択のきっかけとなった、1 節の冒頭のメール文で送信者が「幸いです構文」を用いた動機・理由を送り手の立場に寄り添った観点から考察しておきたい。補足情報を省いた冒頭

ますと幸いです」のような〈勧め〉表現に対応する英語表現は、“I hope you enjoy/like it”“I hope this may be of some interest”のような希望表現であり、「grateful 構文」や「appreciate 構文」は使用されないとのことである。

[19] クロス尚美氏によれば、英語では〈許しの懇願〉は非常に重い行為であり、社交辞令としての使用は一般的にあり得ないとされ、通常は“I am sorry”“I apologise…”のような謝罪表現が使用されるとのことである。日本語では社交辞令として「お許しください」「ご容赦ください」が使用される場合があり、この点は英語との大きな相違点である。中国語はこの点で日本語に近いのではないかと思われる。

[20] イギリス英語では「grateful 構文」が好まれ「appreciate 構文」の使用頻度が低いのに対し、アメリカ英語ではその正反対の傾向があることを指摘したが（cf. 3.2.2)、この現象は、人間関係に一定の距離をおくイギリス文化と、親しい関係を肯定的に評価するアメリカ文化という、両国の文化や国民性の違いと関連づけて説明できる可能性がありそうである。しかし検証が不十分な現段階では、現象の指摘にとどめておきたい。

の 2 例を再掲する。

(1) 呆れて見放されても当然の行動であり、大変図々しいお願いとは存じますが、お許しいただければ幸いに存じます。

(2) 研究が思い通りに進まず、返信をお送りしてなかったことをお許しいただけますと幸いです。

このメールの送信者であるＡさんの日本語文章能力が非常に高いことは、文面から明らかだと思われるが、「幸いです構文」を使用した理由を直接本人に尋ねたところ、「～てください」の直接的な働きかけのニュアンスを本人が好まず、それを避けることがその中心的な動機であることが明らかとなった。事実、Ａさんは音声言語・書記言語のどちらの場合も、目上の人物には「～てください」の使用を回避するストラテジーを一貫してとっており、受け取ったメールの文章でもこのことが窺える。

(1)(2)のメール文の不自然さは、「幸いです構文」の機能に対する過剰一般化が原因となっているように思われる。「幸いです構文」を「～てください」「お／ご～ください」のもつ直接性を回避・緩和する表現と捉える理解は適切だが、これを〈許しの懇願〉に拡張して適用することは適切とはいえない。演技的な場合を含め、切羽つまった状況で切実さをもって赦免を懇願する場合は、聞き手に強く訴え実現を促す必要があり、冷静で控え目な「お許しいただければ幸いです」ではなく、「許してください」「お許しください」のような命令形の使用が必要となるのである。これと同様のことは聞き手利益の事態実現の〈勧め〉にも当てはまる。例えば対面場面で飲食物を勧める場面では「もっと召し上がってください」が自然で、「もっと召し上がっていただければ幸いです」は非常に奇異な表現である。聞き手の利益となる事柄は直接的な表現を使い実行を強く促すことが丁寧さにつながるからである。

Ａさんのケースは、言語能力が非常に高い場合であっても、第二言語の定型表現の適切な使い分けは、習得が容易ではない分野であることを物語るものである。中国語では、日本語・英語と異なり、行為指示に条件文を使用した定型表現が使われないことも、習得を困難にしているもうひとつの原因といえるかもしれない。

５．おわりに

今後の課題を掲げ、本稿を締めくくることにしたい。

「幸いです構文」や英語の 2 構文のような定型表現では、主節述語の語彙的意味や品詞の違いが文型や機能の決定に重要な影響をもつことが示唆される。例えば日本語の「幸いです」は、事態の実現が幸運によってもたらされるという受動的な意味をもつが、英語の *appreciate, grateful* は、それぞれ感謝を表す他動詞、形容詞であり、実現に先んじて聞き手に感謝表明を行うことにより効果的に事態の（非）実現を図るという方略的意図を使用の動機とするものである。強意副詞の共起において 2 言語が見せる対照性は、こうした策動の方略や婉曲化のメカニズムの相違が重要な要因として働いているように思われる。

主節述語の語彙的意味は、日本語では従属節の接続形式の選択にも影響を与える。例えば「幸いです」と類義的な述語に「嬉しい」「有り難い」があるが、これらと「幸いです」に前接する接続形式には共起傾向の相違が認められる。すなわち「嬉しい」は「お会いできて嬉しいです」のように「テ形」との共起が認められるのに対し、「幸いです」では共起はゼロである（*お会いできて幸いです)。また「有り難い」「嬉しい」は「教えていただけると有り難い／嬉しいです」のように、「ば」よりも「と」

と高い共起傾向を示す点も「幸いです」との相違点である[21]。

今後は、こうした使用された述語の種類や中国語の実例データにも観察の範囲を広げ、定型表現が発揮する機能の体系に対する研究の精密化と深化を目指したい。

［付記］

最後に、本稿を成すに当たりご協力いただいたお二方への謝意を表しておきたい。まず、Ａさんには、私的なメールを研究データに使用することをご快諾いただいたばかりでなく、母語話者の立場から中国語に対する内省や情報をご提供いただいた。英国在住のクロス尚美（Naomi Cross）さんには、英語の用法やニュアンスについての筆者の質問に対し、母語話者よりも的確かつ客観的な回答とコメントをお寄せいただいた。ここに記し、お二人に厚くお礼申し上げる次第である。

参考文献

柏崎雅世（1993）『日本語における行為指示型表現の機能―「お～／～てください」「～てくれ」「～て」およびその疑問・否定表現について―』（日本語教育基礎研究シリーズ１）くろしお出版

川瀬　卓（2015）「副詞「どうぞ」の史的変遷―副詞からみた配慮表現の歴史、行為指示表現の歴史―」『日本語の研究』11(2): 16-32

川瀬　卓（2018）「前置き表現から見た行為指示における配慮の歴史」高田博行・小野寺典子・青木博史（編）『歴史語用論の方法』pp.242-262 ひつじ書房

坂口和寛（1995）「辞書ではわからない副詞の語彙的意味の記述―「ぜひ」「どうか」について」『東北大学文学部日本語学科論集』5: 37-48

中野清治（2016）『英語仮定法を洗い直す』（言語・文化選書 64）開拓社

蓮沼昭子（2020）「勧め表現再考―「助言型勧め」と「申し出型勧め」の選択に関与する語用論的要因―」『日本語日本文学』30: 11-36（創価大学日本語日本文学会）

蓮沼昭子（2022）「「お／ご～ください」の発話機能―行為指示的発話行為の体系における位置づけ―」『日本語教育連絡会議（2021）論文集』Vol.34: 110-126

姫野伴子（2000）「勧めの表現形式」『留学生教育』3: 1-11 埼玉大学留学生センター

姫野伴子（2012）「第 36 課「てくれませんか／てもらえませんか」」「第 37 課「てください」」近藤安月子・姫野伴子（編著）『日本語文法の論点 43』pp.184-193 研究社

牧野由紀子（2009）「「大阪方言の命令形」に後接する終助詞ヤ・ナ」『阪大日本語研究』21: 79-108

森本順子（1994）『話し手の主観を表す副詞について』（日本語研究叢書 7）くろしお出版

森　勇太（2010）「行為指示表現の歴史的変遷―尊敬語と受益表現の相互関係の観点から―」『日本語の研究』6(2): 78-92

Leech, G.N.（2014）*The Pragmatics of Politeness.* New York: Oxford University Press. （リーチ，ジェフリー（著）田中典子（監訳）熊野真理・斉藤早智子・鈴木卓・津留崎毅（訳）（2020）『ポライトネスの語用論』研究社）

[21] BCCWJ の検索結果では、「幸いです構文」で使用される条件接続形式の頻度順は、「ば＞と＞たら」であったが、「嬉しい」では「と＞たら＞ば」、「有り難い」では「と＞ば＞たら」となっており、これは条件節と主節述語の間に内在する因果・時間関係の捉え方の相違を反映する現象ではないかと考えられる。

調査資料

［コーパス］

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

British National Corpus（BNC）<https://www.english-corpora.org>

Corpus of Contemporary American English（COCA）<同上>

［書籍］

CC アカデミー・大羽りん・趙青（2021）『ビジネスで 1 番よく使う中国語 E メール&SNS』J リサーチ出版

林　松濤（2020）『大人なら使いたい中国語表現～メールやビジネスシーンで恥をかかないために～』三修社